

一 西 だ よ り



豊川市立一宮西部小学校通信

令和 8年 2月 6日 第30号

発行;校長 村上謙一

【6年生が卒業プロジェクトに取り組んでいます】
6年生があと2ヶ月足らずで一宮西部小学校を卒業します。6年間お世話になった母校に恩返しをする卒業プロジェクトを立ち上げてくれました。一西小はいろいろなものが古くなっています。今年は創立120周年を迎える学校ですから、仕方のないことでもあります。しかし、古い施設でも手入れが行き届いていれば、古さは歴史の重みという価値に転換することもできます。体育館の窓の隅々まできれいに掃除をして、カーテンもほころびを縫って、きれいに洗濯してくれました。また、各トイレ出入口の「のれん」も手作りで新調してくれています。6年生の子どもたちは卒業式に向けて、感謝の気持ちを育んでくれているようです。

6年生の皆さん、「あいさつ」「小さい子を守る帽子着用」のよい文化も後輩につないでくださいね。

【5年 自動車工場等の見学】

1/29(木)5年生が三菱自動車岡崎工場とトヨタ会館を訪問して、日本の基幹産業である自動車産業について学びました。



【3年 消防署見学】



1/30(金)3年生が消防署(一宮分署)を訪問しました。市民を火災や災害から守ってくれる頼もしい大人や施設から学びを深めました。

【先生方の勉強会】

1/29(木)全教職員で授業改善の取組について検討会をもちました。今年は「先生が教える授業」を、「子供が自走して学ぶ授業」に変えていくことを目指しました。これを進めるには、子供たちの主体性を高めていかねばなりません。今後も教育活動全体で主体性を育む取組を続けることを確認しました。子供が当事者として企画立案するマラソン大会、子供が当事者として課題解決をプロジェクトする児童会活動、子供を学級の当事者にするチーム担任制、子供が学びの当事者として自走して学ぶ授業、これら全ては「主体性」でつながっています。

【学校評価アンケートの自由記述から】

学校評価アンケート「自由記述」に寄せられたご心配についてお答えの第3弾です。

★「教科担任制とチーム担任制の二つに取り組んでいるので、総合的に誰がまとめるのか曖昧になってしまわないか」「先生の連携ができるないと感じる」

上記2件の「まとめる」「連携」に関するご心配の声をいただきました。前号の繰り返しになりますが、このように感じさせてしまっていることについて、お詫びの上でお話します。

本校では3年生以上で教科担任制をとっています。1・2年生でも一部で同様の取組をしています。これは教職員の教科指導の専門性向上と業務削減、子どもの学びの深まりなどの効果があることから、国・県が強く推進している取組です。この制度は、子供を「自律した学び手」にするチーム担任制との親和性が高いものです。教科での学びと学級での生活の両方ともに自分が当事者となって取り組んでいくシステムだからです。したがって、教科担任制とチーム担任制の2つに取り組むことによる混乱は全くありません。また、授業と学級でのお子様の様子を常に共有できるので、「教科担任は知っているが学級担任は知らなかった」ということも未然に防げます。「だれが取りまとめるのか曖昧」というよりも、「チームで常に共有しているので安心」とお考えいただけるよう努めてまいります。

また、「連携」については、複数の教科担任による見取りと、学級担当による見取りの情報交換を学年チームで毎日1時間前後行っています。このチームによる情報共有という概念はこれまでの学校にはありませんでした。情報はあくまでも担任一人が握っており、各教科の様子の把握は担任が個人的に隨時行うのがこれまでの常識でした。チームでの情報共有という業務が毎日1時間前後生み出されたとも表現できます。働き方改革を「時間短縮」という側面のみで見ると、これは世の中に逆行した取り組みになってしまいます。しかし、本校は子供を真ん中に置いて、子どもにとって必要な取組には手を抜かず、事務的・慣例的業務の断捨離に努めています。お子様の情報共有は削るべき業務ではありません。昨年度から10分程度、下校時間を繰り上げているのは、この情報共有の時間ねん出のためであることも重ねてお伝えいたします。